

B 小学校の取組

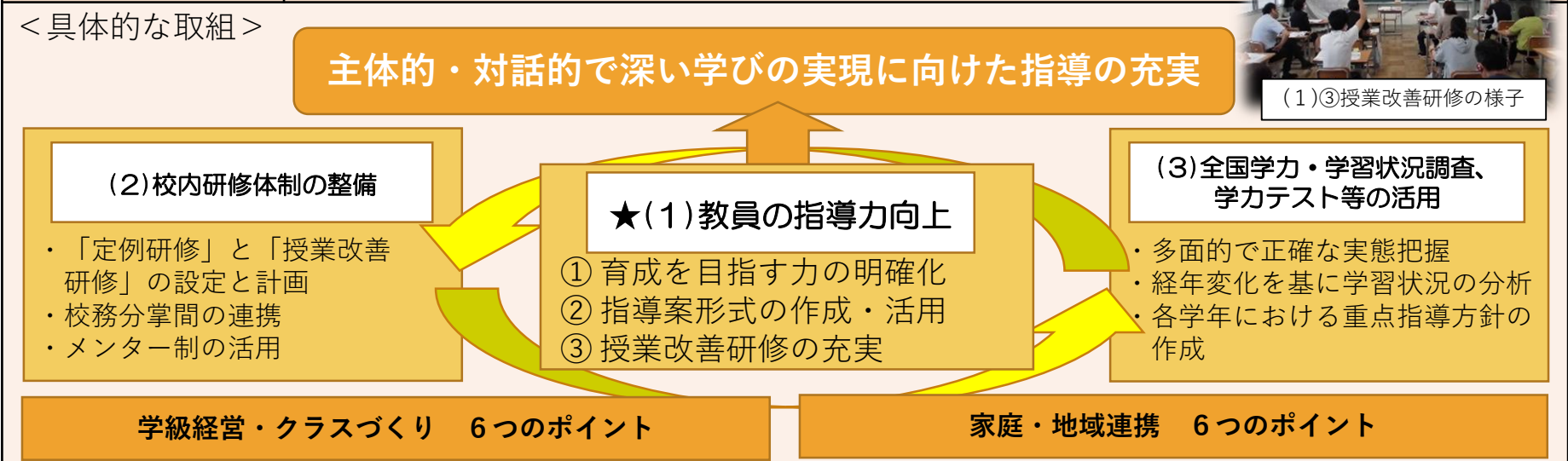
○学校の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員と児童の温かい関係、協力的な地域・家庭に支えられ、落ち着いて学ぶ環境が整っている。 ・ 真面目な学習態度が多く見られている一方で、学力分布の山が複数あり、学力の定着度にばらつきがある。自分の考えを表現することや、習得した知識を発展・活用することを苦手とする児童が多い。
--------	---

○教員の状況及び願い	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢や性別、指導歴等、多様な教員集団となっている。 ・ 子供たちが書く、説明する、聞く等の表現活動を通じて、学びを定着し、広げ、深めていけるようにしたいと考えている。 ・ 子供たちに、自ら課題を見だし、粘り強く問題解決に取り組む主体性、学びに向かう力を養いたいと願っている。 	

学力向上の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の実態把握を的確に行い、育成を目指す資質・能力を明確化し、三つの柱をバランスよく育む。 ・ 教員の指導力向上が児童の学力向上に直結するという認識のもと、組織的、かつ、効果的・効率的に授業改善を図るための取組・工夫を積み重ねていく。 ・ 実践と検討を通じて「主体的・対話的で深い学び」を実現していきたい。
-----------	---



(1)③授業改善研修の様子



成果と課題	<p>○視点を明確にした一人1研究授業や検討会を通じて、「主体的・対話的で深い学び」の具体的なイメージをもつことができ、授業改善につながった。結果、児童主体の授業づくりが促進され、見通しをもって解決に向かう様子、粘り強い取組といった望ましい児童の姿が見られるようになった。</p> <p>●めあての設定や交流活動を通じて個々の学びを深める教員のコーディネート力を高めてきたが、更なる学力の定着・向上に向けて、今後も指導方法や研修体制等を多面的に見直していく必要がある。</p>
-------	--

★①教員の指導力向上 ～3つの「共有」を通じて～

①育成を目指す力の明確化～目標の共有～

「報告書」で学力向上の取組を学校への提案書、更に各校の「学力向上 向上を図る教育活動の充実をめざし」育成すべき資質・能力：本校の児童につけさせたい力

《知識・技能》 聞く力 正しく読み取る力
 《思考力・判断力・表現力》 目的に応じて表現する力 活用する力
 《学びに向かう力》 意欲的に学ぶ力 粘り強く取り組み力

・全国学力・学習状況調査の分析を通じて、三つの柱の視点から育成を目指す資質・能力を重点化した。教科横断的な力として示すことで、学校生活のあらゆる場面で指導のゴールとして活用できるよう工夫した。

・本年度の目標に示される「表現」、「活用」、「粘り強さ」などのキーワードから、「単元や本時の導入場面」と「交流活動」の充実を目指す研修の方向性を立案した。

「共有」の力で組織的・効果的・効率的に授業改善を図り、学びの芽を育む!

③授業改善研修の充実～実践の共有～

- ・年度初めに学力向上コーディネーターが提案授業を行い、前年度までの学力向上の取組と今年度の研修の方向性を確認した。
- ・1人1授業では、授業改善の視点に関わる部分を中心に参観することで、柔軟な参加体制の確立と、検討会で話し合う内容の焦点化を図った。
- ・検討会では、効果的な手立てが他の場面でどう活用できるか、それまでの研修の課題やポイントがどのように生かされていたか等の視点を設け、学校全体として授業改善の手立てを積み重ねる建設的な意見交換を行った。
- ・①の課題意識から、単元の導入の過程を中心に実践した。

授業者名

授業者名

授業者名

授業改善の視点の確認

視点を絞って検討

全教員の考えを反映

実践の蓄積

検討会の記録 (別添)

②指導案形式の作成・活用～視点の共有～

算数科学習指導案
 令和〇〇年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇時 〇年〇組教室
 〇学年〇組 指導者 〇〇 〇〇

単元名「図形の大きさ」

〇学びに向かう力・人間性等
 内角の和のまわりについて、四角形、五角形・・・と系統的に学習を広げようとして、四角形などの内角の和を具体的な問いを通して、その長さに応じた五角形などの学習に生かそうとしたりする。

〇知識・技能
 三角形、四角形の内角の和について理解し、それを活用して、未知の内角を求めることができる。

〇思考力・判断力・表現力等
 三角形の内角の和の性質を具体的に用いたし、それを活用して、未知の内角を求めることができる。流暢に説明したりすることができる。

本時の学習：四角形の内角の和が180°であることをもとに、どんな四角形でも内角の和が360°であることを説明する。

<ねらい> 三角形の内角の和が180°であることをもとに、どんな四角形でも内角の和が360°であることを説明することができる。

授業改善の視点
 四角形の内角の和が360°になることを共有した上で、対角線をひきつけた四角形の図を示したことは、児童が四角形の内角の和について流暢に考え、学びを深めるのに有効であった。

<評価計画>

① 考えをひきたり、添えたりする。(15分)
 T: あれ、でもちょっと待って。では、このようにこの四角形を三角形に2つに分けたら、180°×2で360°となる?
 S: 分けることによって内角の和が変わるのはいらない。
 S: 線は引くすると720°となってしまう。
 T: では、この考え方のほかいいところを見つけてみましょう。

② 対角線を2本ひいた四角形の図を示し、対角線が1本の四角形の図と比較することで、対角線の交点部分に余角が2つある(180°)があることに気付かせるようにする。

③ 四角形の真ん中に内角と隣接しない角が360°集まっているそれを取り除かなければいけないので、内角の和は、80×4-360=360°だから、やっぱり360°です。

④ 本時のまとめと振り返りをする。(7分)
 T: では、本日のまとめをしましょう。

全体共有したことをもとに、新たに分かったことについて話し、活かそうとすることができるようになる。

指導案の例 (別添)

- ・①、③の取組の効果・効率を高めるため、指導案形式を検討し、以下の工夫を講じることで授業改善に向けた取組を教員間で意識化できるようにした。
- ・単元で育成を目指す資質・能力を構造的に示す。ここで①も意識して指導案を作成する。
- ・指導案から授業の様子をつかめるよう、黒板を写真で撮影した板書計画を添付する。
- ・交流活動に焦点を当てた授業改善の視点を設け、その具体的な活動に当たる展開部分を同じ色の枠で示す。
- ・本時の展開は、学習スタンダードに沿った項立てにする。

【担任の声】
 工夫を凝らした、丁寧な授業検討会が行われ、他の教員のアイデアや手立てを知ることができ、大変勉強になった。

【担任の声】
 授業改善の視点が具体的に示されたおかげで、見たことを自分の授業に生かすやすかった。

【学力向上コーディネーターの声】
 目標・視点・実践の共有というサイクルを繰り返し行ったことで、授業づくりに対する教員の意識が変容し、教員の指導力及び児童の学力向上の支えとなった。また、(1)～(3)の具体的な取組により、総合的に学力を向上させる基盤が構築されたので、今後さらに発展・充実させていきたい。